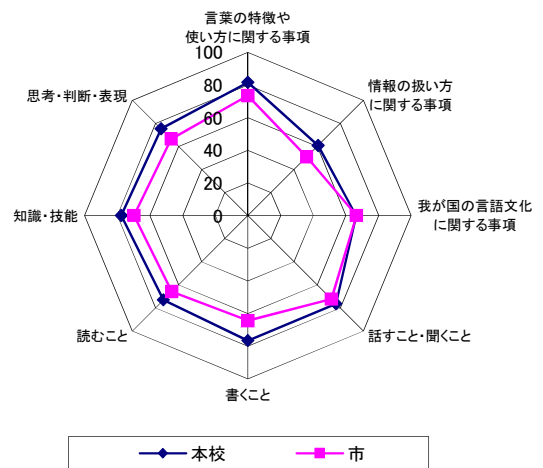


宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.6	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	60.8	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	66.3	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	76.3	72.3	73.7
	書くこと	76.5	64.3	66.6
	読むこと	73.1	65.8	64.9
観点別	知識・技能	77.5	69.8	70.8
	思考・判断・表現	75.1	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

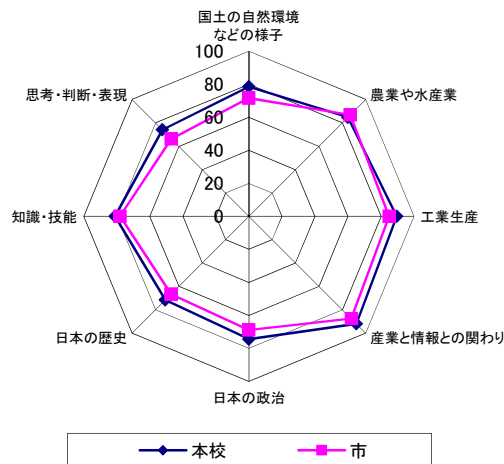
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の正答率は81.6%で市の平均を8.1ポイント上回っている。 ○漢字の読みの問題においては、正答率が高く全て9割を超えており市の平均をほぼ上回っている。 ○漢字を書く問題においても正答率は9割前後で高く、市の平均を上回っている。 ●敬語の使い方を理解しているかを問う問題においては正答率が市の平均と同等であったが、22.9ポイントと低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・既習漢字についても折に触れて取り上げ、練習問題に繰り返し取り組ませることで、より一層の定着を図る。 ・文章の中で漢字を使うよう意識させることで、正しく漢字を活用する力を高める。特に送り仮名の正しい使い方も、意識させる。 ・普段から、敬語の正しい使い方について意識させ、繰り返し練習して定着できるようにする。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の正答率は60.8%で市の平均を9.8ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く設問では、市の平均正答率を13.8ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた情報を選び、情報と情報の関係について正しく理解し、文章にまとめることができるような機会を、他教科においても意図的に設定し、今後も横断的に書く活動を行っていく。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●和語・漢語・外来語についての理解を問う問題の正答率は66.3%で、市の平均正答率を0.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・和語・漢語・外来語の語句の由来に関心を持たせ、それぞれの特徴を理解して活用できるように指導していく。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の正答率は76.3%で市の平均を4ポイント上回っている。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができているかについては、市の平均を9ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでは、相手の回答を自分の言葉で表現し直して、話の要点を確認するなどの活動を取り入れていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の正答率は76.5%で市の平均を12.2ポイント上回っている。 ○予想される反論とそれに対する自分の考えを書く設問では、市の平均正答率を20.4ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書けるよう、作文の機会を引き続き設けていく。 ・自分の意見と理由を明確に持って、友達と討論するなどの機会を意図的に増やす。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の正答率は73.1%で市の平均を7.3ポイント上回っている。 ○登場人物の心情について、描写を基に捉える設問では、市の平均正答率を12.8ポイント上回っている。 ○叙述を基に文章の内容を捉える設問では、市の平均正答率を11.5ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文では、登場人物の心情について描写を基に捉えたり、人物像を具体的に想像したりする指導を継続して行っていく。 ・説明文では、文章全体の構成を捉えて、情報を整理し、要旨をまとめる活動を取り入れていく。

宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	78.6	71.6	69.6
	農業や水産業	84.7	86.7	83.7
	工業生産	89.6	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	92.2	87.7	77.4
	日本の政治	74.4	68.9	71.7
	日本の歴史	71.7	66.7	66.3
観点別	知識・技能	81.1	78.0	76.7
	思考・判断・表現	74.1	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

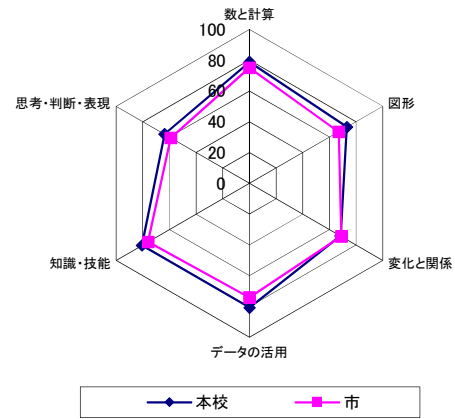
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○領域全体の正答率は78.6%で、市の平均を7ポイント上回っている。 ○国内の林業が抱える課題について考える問題の正答率は47%で、市の平均を11.8ポイント上回っている。	・地図帳を活用しながら学習を進めることで、地図を読む習慣を身に付けさせ、地理に関する基礎的な知識の向上を図る。 ・日常生活において、環境問題が自分たちの生活に及ぼす影響について考える機会を設ける。
農業や水産業	●領域全体の正答率は84.7%で、市の平均を2ポイント下回っている。 ○米の生産が盛んな地域についての理解をもとに、資料を判断する問題の正答率は92.8%で、市の平均を2.3ポイント上回っている。 ●米の生産の工程についての理解を問う問題の正答率は74.7%で、市の平均を6.9ポイント下回っている。	・語句の意味を正しく捉えさせた上で、教科書の本文と写真や資料を関連付けながら読み取らせるようにする。
工業生産	○領域全体の正答率は89.6%で、市の平均を4.6ポイント上回っている。 ○日本の工業の特色について、資料をもとに表現する問題の正答率は85.5%で、市の平均を12.1ポイント上回っている。 ●自動車の製造工程についての理解を問う問題の正答率は88%で、市の平均を1.3ポイント下回っている。	・複数の資料を読み取り、それらを関連付けて考える機会を設ける。 ・グラフや表などの資料を扱った問題に取り組む機会を設けることで、資料を活用する力を身に付けさせる。
産業と情報との関わり	○領域全体の正答率は92.2%で、市の平均を4.5ポイント上回っている。 ○情報の発信と受信の注意点について考える問題の正答率は86.7%で、市の平均を7.6ポイント上回っている。	・情報を伝える側と受け取る側の両者の立場から学習問題を考えさせるなど、情報に関わる際の注意点について考える機会を設けることで、理解を深められるようにする。
日本の政治	○領域全体の正答率は74.4%で、市の平均を5.5ポイント上回っている。 ○天皇の地位についての理解を問う問題の正答率は73.5%で、市の平均を10.5ポイント上回っている。	・日本国憲法や日本の政治を自分事として捉えられるように、ニュースや新聞などの身近な教材を活用する。
日本の歴史	○領域全体の正答率は71.7%で、市の平均を5ポイントを上回っている。 ○安土桃山時代の鉄砲の伝来についての理解を問う問題の正答率は96.4%で、市の平均を8.7ポイント上回っている。 ●古墳時代の他の国を従えて大きな力を持った人物についての設問に対する正答率は45.8%で、市の平均を4.7ポイント下回っている。	・調べたことを年表や文章などにまとめ、歴史上の出来事が起こった社会背景とその時代の文化を関連付けて考えられるようにする。

宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.8	75.1	75.8
	図形	73.0	66.8	68.3
	変化と関係	68.3	68.8	65.0
	データの活用	80.7	74.1	63.6
観点別	知識・技能	80.8	76.1	75.8
	思考・判断・表現	63.9	59.0	51.7



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

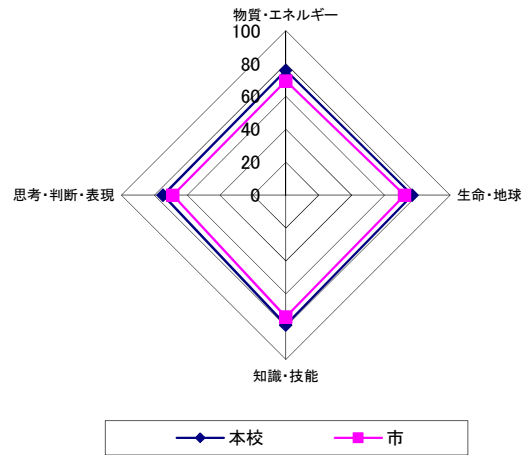
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○領域全体の正答率は78.8%で、市の平均を3.7ポイント上回っている。</p> <p>○真分数+真分数=仮分数(帯分数)で、片方の分母にそろえて通分をする問題の正答率は83.1%で、市の平均を9.5ポイント上回っている。</p> <p>○分数×分数(約分あり)の計算、及び分数÷分数(約分あり)の計算の正答率はどちらも市の平均を上回っている。</p> <p>●分数の除法の文章問題にあった図を選ぶ問題の正答率は75.9%で、市の平均を1.5ポイント下回っている。</p>	<p>・計算プリントや繰り返しドリルなどを活用して、何度も問題に取り組み、様々な技能を確実に身に付けさせるようにする。</p> <p>・グループやペア学習での話し合いを通して、他者への説明をすることにより理解度を上げる。</p> <p>・文章問題から正しく数直線に表す技能を確実に身に付けさせるようにする。</p>
図形	<p>○領域全体の正答率は73.0%で、市の平均を6.2ポイント上回っている。</p> <p>○三角形や円の面積と四角柱の体積を求める問題では、どれも市の平均を上回っている。</p> <p>●正六角形の作図方法から、円の中心のまわりに行ける角の大きさを求める問題の正答率は79.5%で、市の平均を2.6ポイント下回っている。</p>	<p>・図などから解答を求める設問では、(図などの中に書き込まれていない)必要な情報を書き足しながら考えることを習慣化していくよう指導する。</p> <p>・いろいろな図形の公式をそのまま覚えるのではなく、児童に考えさせる場面を取り入れ、論理的な思考力が身に付くよう指導する。</p>
変化と関係	<p>●領域全体の正答率は68.3%で、市の平均を0.5ポイント下回っている。</p> <p>○表から面積と数の割合を求め、どのにわり小屋が最も混んでいるかを考察する問題の正答率は78.3%で、市の平均を4.9ポイント上回っている。</p> <p>●基準量と比較量から、割合を求める問題の正答率は47.0%で、市の平均を6.8ポイント下回っている。</p>	<p>・もとにする量を1とみたときの、比べられる量を常に意識させながら割合の関係を立式させることで、理解を深めさせる。</p> <p>・問題文から条件を正確に読み取れるように、生活の場面や実体験と結び付けて考えさせる問題に取り組ませる。</p>
データの活用	<p>○領域全体の正答率は80.7%で、市の平均を6.6ポイント上回っている。</p> <p>○中央値を求める問題の正答率は88.0%で、市の平均を12.5ポイント上回っている。</p> <p>●走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走るときにおよそ何歩かかるかを求める問題の正答率は60.2%で、市の平均を0.5ポイント下回っている。</p>	<p>・グラフの読み取りが苦手な児童には、拡大したグラフや他のグラフへの置き換えを行い、分かりやすく表現することで理解度を高める。</p> <p>・算数だけでなく、社会科など他教科でのデータの読み取りを通して、その見方の理解を深める。</p> <p>・日常生活の事象について、目的に応じたデータ収集を心掛け、観点を決めて分類整理する活動を日頃から取り入れることで、データの特徴や傾向など、読み取りの技能を高める。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	75.9	69.5	65.2
	生命・地球	77.0	72.3	70.1
観点別	知識・技能	79.0	74.0	70.7
	思考・判断・表現	74.6	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○領域全体の正答率は75.9%で、市の平均を6.4ポイント上回っている。</p> <p>○グラフを読み、食塩とヨウ化亜鉛の水への溶け方についての設問では、正答率は88.0%で、市の平均を10ポイント上回っている。</p> <p>○食塩水をリトマス紙につけたときの色の変化を指摘する設問では、正答率は68.7%で、市の平均を12ポイント上回っている。</p> <p>○電磁石の性質についての設問では、正答率は73.5%で、市の平均を15.2ポイント上回っている。</p> <p>●二酸化炭素と窒素を区別する方法についての設問では、正答率は86.7%で、市の平均を0.7ポイント下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>○今後の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題から予想し、実験・観察の結果から考える活動を今後も継続し、科学的な思考力をさらに高めていく。 ・実験のねらいや目的を明確にし、調べる方法を考え工夫する活動を多く取り入れ、児童が主体的に学習できるよう、授業改善に努める。 ・実験結果から考察する際に、友達や他のグループと比較したり、考えを交流したりする機会を今後も意図的に設け、互いに学び合いながら結論を導き出せるようにする。 ・正答率が低かった単元については、重点的に学習し、知識・技能の向上と定着を図る。
生命・地球	<p>○領域全体の正答率は77.0%で、市の平均を4.7ポイント上回っている。</p> <p>○月の満ち欠けのモデル実験に関する設問では、正答率は94%と高く、市の平均を11ポイント上回っている。</p> <p>○食物連鎖に関する設問では、正答率は86.7%と高く、市の平均を15.6ポイント上回っている。</p> <p>○野菜を保存するために、茎や葉を切る理由を問う設問では、正答率は59.0%で、市の平均を9.6ポイント上回っている。</p> <p>●月と太陽の実験から和歌が読まれた時の月の形を推測する設問では、正答率は27.7%と低く、市の平均を5.1ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を通して、身近な自然現象に対する興味関心をさらに高めていく。 ・観察や実験の結果をもとに、実生活や実体験と結び付けて考えるよう促すことで、理解を深め知識の定着を図るとともに、科学的なものの見方や考え方を生活に生かせるようにしていく。 ・「ヒトや動物の体」や「月と太陽」は、理解が難しい単元なので、今後も模型を活用したり、実験を通したりして重点的に指導していく。

宇都宮市立上戸祭小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・書く力の育成	・根拠や理由を挙げながら、自分の考えを記述することができるよう、指導に力を入れている。	・6年生の国語では、「書くこと」に関する正答率が、全ての設問において市の平均を上回った。
・自ら考え、交流し、学びを深められる児童の育成	・児童が見通しを持って学習したり、自力解決に取り組んだりする意欲を高められるように授業展開や課題設定を工夫している。 ・友達の考えと比べて自分の考えを吟味することで、考えを深められるようにしている。	・高学年では、「ものごとを比べながら考えている」、「ものをいろいろな視点や立場から考えている」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合が、市の平均を上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国語では、叙述を基に段落の内容を捉える問題に課題が見られ、算数や理科では、用語を正しく使って過不足なく説明する力に課題が見られたため、文章の要約や、段落相互の関係を正しく捉える活動を取り入れたり、基礎的な知識の習得を図ることに加え、指定された用語を用いて説明する活動を意図的に取り入れる。

・学年差はあるものの「授業で習ったことはその日のうちに復習している」、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」と肯定的に答えた児童の割合が低い傾向にある。次年度は、宿題の出し方や、自主学習の取り組みせ方にさらなる工夫を図っていきたい。